

活動報告書

報告者氏名： 内田 利幸

所属： 大山町立名和小学校

記録日： 2014年2月14日

【対象児の情報】

○学年 小学4年生の女兒(Aさん)

○障害名 正式な診断はないが、書字困難、不注意傾向が疑われる。

○障害と困難の内容

- ・字形が整わない。お手本を見ながらでも、細部を間違えてしまう。
- ・漢字を覚えることが苦手である。(4年1学期現在で2年生の漢字の定着率は40%程度)
- ・自分の思うように文字が書けなかったり、考えがうまくまとめられなかったりするため、文章に書いて表現したいという気持ちは持っているが、なかなか1人で書き切る事ができない。

【活動目的】

○当初のねらい

- ・iPadを活用して苦手な部分を補い、作文を書く事ができる。
- ・「お話作りが好き」という本児の表現の幅を広げていく。

○実施期間 平成24年9月～平成26年2月

○実施者 内田利幸

○実施者と対象児の関係 通級の担当教員

【活動内容と対象児の変化】

○対象児の事前の状況

- ・お話作りが好きで、自分の作ったお話を表現したいという気持ちは持っているが、文章を書く事に対して「うまくできない」という苦手意識が強く、なかなか書いてまとめるということに取り組みずじまり。
- ・学年が上がって考えるお話も長くなり、書かないとうまく伝わらなくなってきたが、わかっているにもかかわらず、大好きだったお話作りの意欲も下降気味になっていた。
- ・字形が整わず、漢字を覚えることが苦手であった。

○活動の具体的内容

☆『作文を書く』ということには次の4つのステップに分けて取り組んだ。

- ①書きたい項目の整理・・・SimpleMind+で考えをカードにし、並べ替えながら「書きたい事」について整理する。
- ②整理された項目の文章化・・・項目をもとに本児が書きたい内容を話し、それを聞きながら教師がテキストに打ち込む。打ち込んだ内容を本児が読み返して確認する。
- ③下書きの完成・・・・・・・・・・ i TextPad にテキストをはりつけ、清書用紙と同じ文字数・行数で表示させる。
- ④清書・・・・・・・・・・ i TextPad の表示をお手本にして、自書して作文を仕上げる。

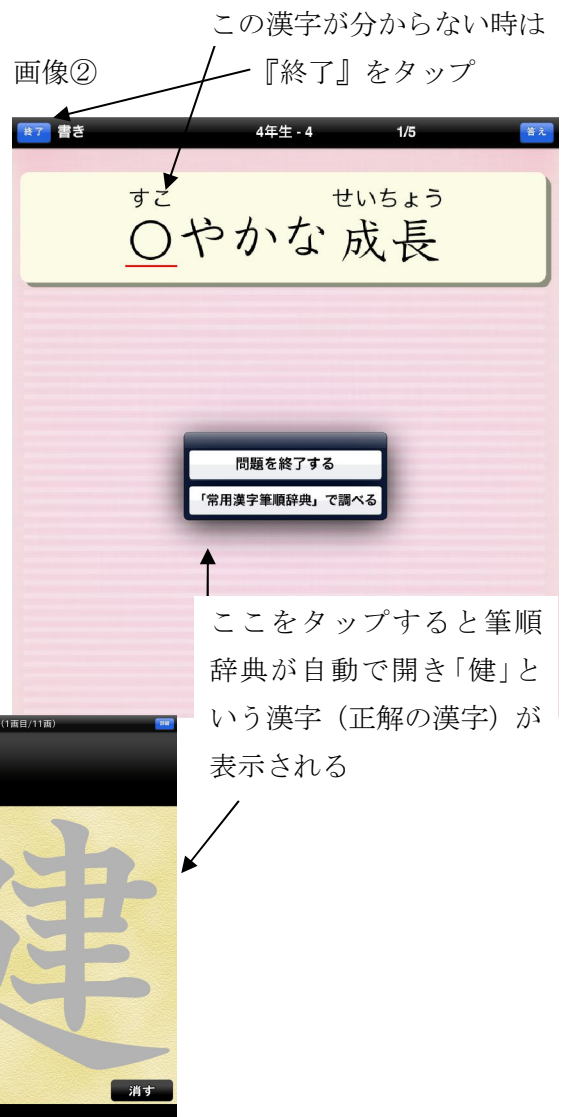
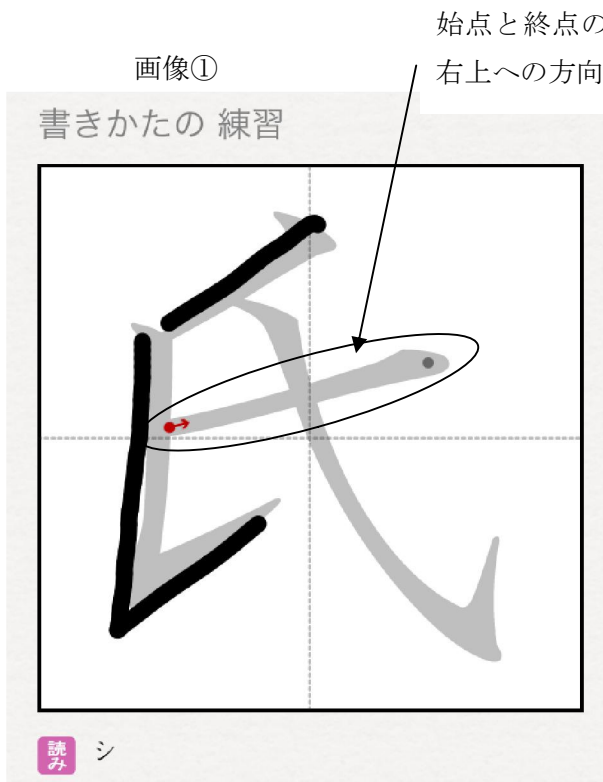
☆漢字の学習について

○対象児が漢字を学習していく流れ(学習場面)

- ・新出漢字を覚える場面や既習漢字を復習する場面で『小3漢字』『小4漢字』を使用
- ・音読の前に読み方の分からない漢字(熟語)を『例解学習国語辞典』を使用
- ・筆順を確認する場面で『筆順辞典』を使用
- ・学習した漢字の定着、復習の際に『書き取り漢字練習』を使用

○上記のアプリを使ってみて

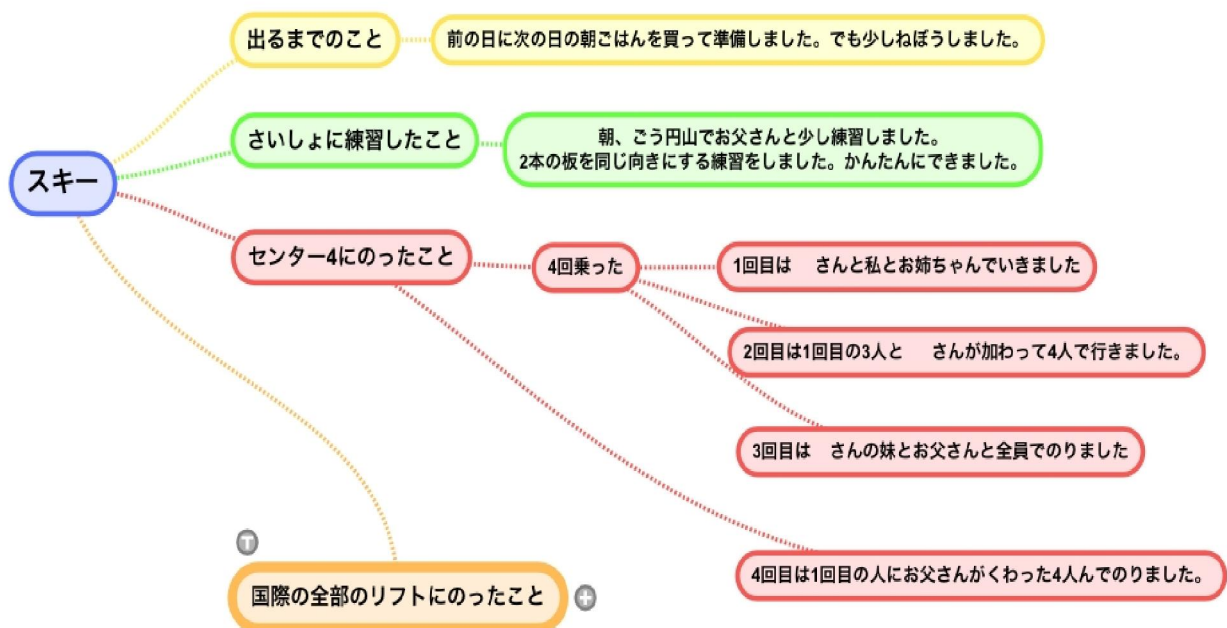
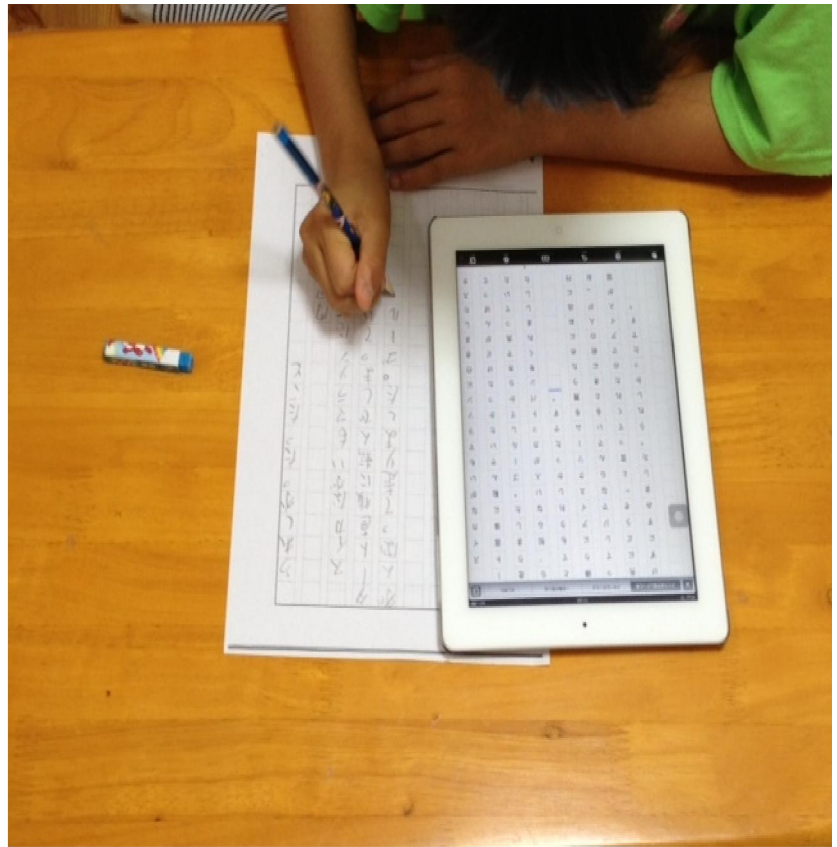
- ・『小3漢字』『小4漢字』は書き順が示されるだけでなく、方向も示されるので良かった。(画像①)
- ・字形が整わなかったり筆順が間違ったりすると「やり直し」と言われるのが本児は嫌だったのでボリュームを0か1にして行った。また、途中で改良され5回目のやり直しが途中から出来るようになり、使いやすくなった。
- ・『書き取り漢字練習』は『筆順辞典』とリンクしており確認できて良かった。(画像②③)
- ・辞書アプリは以前は大辞林というアプリを使っていたが『例解学習国語辞典』は学年配当の漢字が選べること、使ってある言葉が小学生用であること、写真を入れてオリジナルの国語辞典が作れること等が良かった。



○対象児の事後の変化

これまでは、うまく書けない時や失敗して書き直しをしないといけない場面で「もう書かない！」とやる気を失っていたが、上記のステップで行った作文学習では意欲が継続し、念願のお話を書き切る事ができた。

↓ i TextPad の表示をお手本にして作文用紙に書き写している場面



Simple Mind で整理されたマップ ↑

漢字については学年相当の漢字テストの結果は点数的にはあまり伸びていない。しかし、手つかずの空欄が減り、惜しい間違い(線が1本足りない、偏と旁が逆 等)が増えた。点数はあまり変わらなくても内容が良くなっていることを周囲の大人が本児に具体的に伝えることによってモチベーションが維持できているように思われる。

【報告者の気づきとエビデンス】

○主観的気づきそのエビデンス(活動前後の文字の記録)

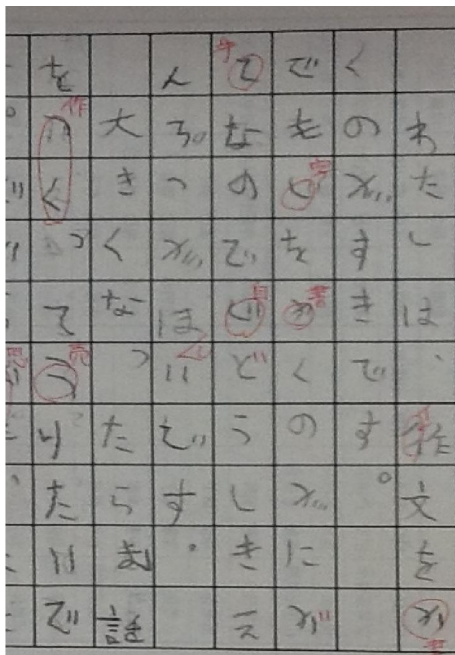
☆『作文を書く』ことについて

- ・自分で考えたお話を作文に仕上げる事ができた事は、大きな自信になり、「書く」ことに対する姿勢に変化が見られている。
- ・ SimpleMind+で確認する事で自分の書きたかったことを思い出せたり整理できたりした。
- ・ i TextPad を使う事で、確認がしやすくなり、自書の際の負担も軽減された。
- ・ 漢字の部分を拡大して表示させることにより、細部も間違えずに書く事ができた。
- ・ 「できる」という見通しをもって最後まで取り組む事ができていた。
- ・ 「次はこんなお話が書きたい」と話すようになった。

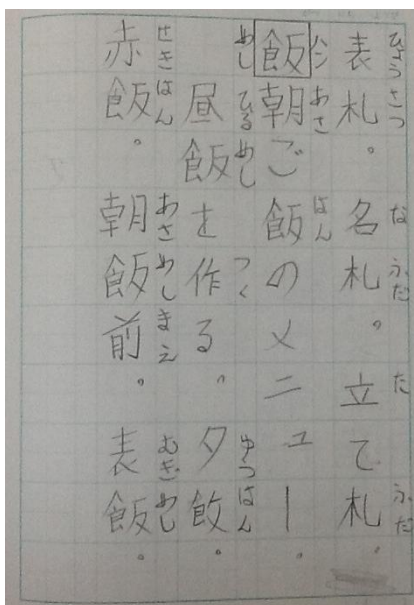
☆『字形が整わず、漢字を覚えることが苦手』ということについて

4年生で学習する新出漢字とは別に3年生の漢字も『小3漢字』を使って行った。去年、一度は見たことのある漢字だったので少し余裕を持って取り組むことができた。また社会の時間に学習している都道府県名に興味があり『書き取り日本一周』を使って楽しく漢字や都道府県名を学習することができた。

①iPadを使って漢字練習を始める前の文字の様子



②最近の文字



③書き取り日本一周を使っている場面



①に比べ②は字形が整っているのがよく分かる。②の「夕飯」や「麦飯」は形態の間違いがあるが、一緒に見直しをしたところ間違いにすぐに気づいたので不注意からのミスだと考えられる。

○この取組を通して感じたこと

SimpleMind+や i TextPad を使うと使わなかった時に比べ、考えをまとめていく手段を得て見通しを持てるようになり、捉えの困難さが支えられ書きやすくなったと思われる。書く場面での苦手な部分が補われ、状況が変わったことで毎日の連絡帳に日記を書いたり、感動したことや書きたい事があった日には、作文が宿題でない日でもお話(文章)を書くことがあった。

作文を書くことに関する類似事例 小学5年 男児(B君)

B君も同じように作文は苦手であったが、Aさんとの1番の違いは、『B君の場合は書くことが思い浮かばず、量が少ない』(Aさんは量の調整ができない)ということである。そういう量が少ない場合にも SimpleMind+が有効であった。

このように同じ作文が書けないという同じ状態でも、個々の状況が大きく違う場合がある。児童によっては、SimpleMind+は必要なく、i TextPad だけでいい場合もある。表面的に見える『作文が書けない』という状態でも、どの段階でどのように困っているのかをよく見極めて対応することの大切さを再認識した。